



かぜくも

いわき支援学校

地域支援センター通信 No. 27

R5. 3. 8 発行

「生徒指導提要（令和4年12月）」の改訂について

教頭 大和田 浩

令和4年12月に文部科学省「生徒指導提要」が12年ぶりに改訂されました。

本改訂より、デジタル化され、関連法令などのページに飛べる仕組みが加わるなど、閲覧性が高められています。

改訂のポイントの1つに「生徒指導と教育相談が一体となったチーム支援」があります。児童生徒一人一人への最適な指導・援助が行えるように、生徒指導、教育相談、キャリア教育、特別支援教育など、それぞれの分野の垣根を越えた包括的な支援体制をつくることが求められます。また、生徒指導の課題に対応する際に、起きてからどう対応するかという以上に、未然に防ぐにはどうすればよいのかという課題予防的生徒指導：課題未然防止教育も重要とされています。本校でも、より多様なニーズに対応できるように改訂の主旨や内容を確認しながらセンター的機能の充実を図ってまいります。

「well-beingの実現について」

教頭 中野 正貴

令和4年度に本県の第7次総合教育計画が策定され、その中の目指すべき姿として「個人と社会のwell-being（一人一人の多様な幸せと社会の幸せ）の実現」が掲げられました。横文字でもあり、個人的にも興味をそそられWell-being（ウェルビーイング）を調べてみると、WHOの健康の定義の原文やSDGsの目標にも表れていて、「非常に良好な状態」や「多面的な幸福」、「福祉」など様々な言葉だと分かりました。

個人のwell-beingの実現とは、身体的にも精神的にも、そして社会的にも満たされた状態を作ることだと思います。そのために、児童生徒一人一人の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等をふまながら早期から相談や適切な支援を行い、卒業後も継続できるように関係機関の連携や協働が必須となります。皆様の御協力を得ながら、当センターがその中心的な役割を果たすことができるように努力していきたいと改めて思いました。

乳幼児の保護者へ向けた学習会 かぜくも教室

未就学児のお母さんを対象に、子どもたちの育ちを見守るための勉強会「かぜくも教室」を開催しました。今年度は4回実施し、子どもの体幹や姿勢、言葉の育ちなどをテーマに話を聞いたり、先輩お母さんの話を聞いたりする学習を行いました。お母さん方からは、「同じ悩みをもつお母さん同士の情報交換や日頃の悩みを相談する場がなかなかないので、参加してよかった。」「回数を増やしてほしい。」などという感想をいただきました。

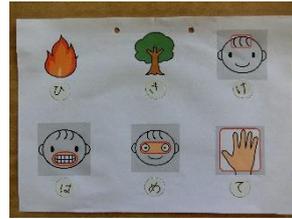


特別支援学校で使われている教材を紹介します



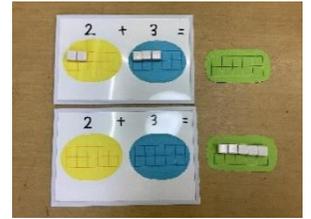
「フットマーク」

床に貼り、並ぶ場所や足を置く位置を分かりやすく示すために使用しています。



「平仮名一文字プリント」

一文字で意味をもつ平仮名の学習に使用しています。文字が、対象となるものを表していることへの気づきを深める手立ての一つです。



「あわせていくつ」

足し算の学習で使用しています。数の合成と分解を視覚的に分かりやすくするための手立てです。



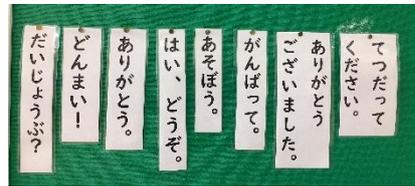
「1日の予定」

見通しをもって過ごせるよう、1日の生活や学習の流れを視覚的に確認できるようにしています。



「カレンダー」

朝の会で、今日の日付や曜日などを確認する際に、合わせて使っています。帰りの会で、今日の学習したことのカードを貼り、振り返りにも使用しています。



「お話ししよう」

日常生活の中で使用しています。常に児童の視界に入る場所に提示してあり、伝え方に困った時などに児童が自分で確認したり、教師がヒントとして提示したりしています。

地域支援センターかぜくも 活動状況

○幼・保・小・中・高の先生方の研修支援

・ミニセミナー (163名)

○かぜくも相談 (154件)

・電話、来校相談 (147件)

・出かける相談 (7件)

○早期教育の充実

・かぜくもひろば (61名)

・かぜくも相談〈就学前〉 (51名)

・学校見学会 (30名)

・かぜくも教室 (24名)

相談支援の依頼については、

幼稚園、保育園・学校等は管理職の先生から、事業所等は管理者の方から、

いわき支援学校 34-3806(教頭) へお願いします。

また、地域支援センター直通の電話080-7512-8323でも相談が可能です。学童保育・サービス事業所等からの相談も可能ですので、ぜひ地域支援センターをご活用ください。